

資料館だより

Vol. **33**

平成 27 年 3 月

企画展「護命僧正と古代山田寺」
護命を追って

江戸時代の改修工事について
大安寺川の洪水と改修

陵南小学校総合学習
大牧1号墳「子どもガイド学習」
母校の誇りを語り継げ！

郷土の歴史を確かめよう
「各務野ヒストリー探検 MAP」を使い倒そう

旧陸軍三式戦闘機 キ 61 「飛燕」
奇跡の出会い 驚きのあまり声を失った

各務原市歴史民俗資料館

〒509-0132 岐阜県各務原市鵜沼西町1丁目116番地3（中山道鵜沼宿町屋館内）

TEL/FAX 058(379)5055 URL <http://www.city.kakamigahara.lg.jp/rekisi/>

各務郡出身の高僧

護命を追って

企画展「護命僧正と古代山田寺」

会期:平成26年12月10日～平成27年2月11日

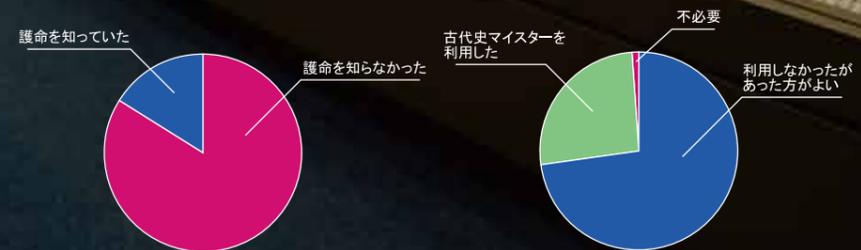
会場:各務原市中央図書館3階展示室

平成26年11月某日、私は奈良へ向かっていました。目的は今年度の企画展のテーマとして取り上げることになった、各務郡出身の高僧・護命の足跡を追うためです。護命は奈良時代末から平安時代のはじめにかけて、奈良の元興寺を中心に法相宗の唯識思想を学び、日本仏教界の中心的な人物として活躍した僧で、『日本後紀』・『続日本後紀』などにその業績をみることが出来ます。奈良時代末から平安時代のはじめにかけて・・・と聞いて歴史好きの人なら「空海や最澄と同じ時代の人物？」と気付くでしょう。その通り、護命は空海や最澄と同時代の人で、最澄が延暦寺に大乘戒壇を設立するため、当時大僧都であった護命に理解を求める手紙には「伝唯識燈為一人師仏法興亡唯属（護命は、唯識の教えを伝える第一人者であり、日本の仏教の興亡は貴方にかかっています）」と記され、また護命が80歳になった折、空海から贈られた祝賀の詩には護命を評して「法相之将 推師当仁（法相教学の大家であり、その師として、他の追随を許さぬほど傑出している）」と詠われています。空海・最澄という時代の寵児にも一目置かれる存在であった護命、それなのに地元・各務原での知名度がほとんど無いのは残念！しかし、私自身も企画展の準備が始まるまでは、護命について蘇原寺島町にある護命塔を見たことがあるくらいの認識しかありませんでした。図書館やインターネットで護命についての文献を調査し、展示構成を考えていくのですが、あまりに内容が堅く、難しい。歴史民俗資料館の学術的な展示としてはそれでも良いと思いますが（あるいは、それをいかに分かりやすい展示にするかが資料館職員としての腕の見せ所でしょうか）、今回の企画展では一人でも多くの市民の皆さんに知っていただきたいという思いがありましたので、もっと護命僧正を身近に感じて頂けるものは無いかと探していたある日、「奈良に護命僧正ゆかりのものがいくつかわわっているらしい」との情報を得た私は、取るものも取り敢えず各務原を飛び出していったのでした。



まず向かったのは、奈良県桜井市にある山田寺跡です。『続日本後紀』に見られる護命の記述に、「古京山田寺」に隠居するという一文があります。この「古京」の解釈について諸説ありますが、「古京」昔の都」と解釈すると、こちらの山田寺が隠居地だと推定されます。当地に護命に関する文物は伝わっていませんが、昭和57年の発掘調査で、伽藍東側の回廊の部材が倒壊したままの状態で見えされており、史跡近くにある飛鳥資料館で見学することが出来ます。一方、「古京」故郷」と解釈すると、古代各務郡に山田寺という寺院があったことになり、各務原の古代寺院については、今回の企画展で取り上げた古代山田寺跡から朱塗りの瓦や塔心礎銅置銅壺（国指定重要文化財）等が発見されており、規模の大きな寺院があったことが推定されています。

翌日は護命が生涯を過ごした元興寺小塔院跡がある奈良市内へ。元興寺の旧境内は、現在中世以降形成された「奈良町」の歴史的町並みが広がっており、そのなかに古代の元興寺を起源とする二つの元興寺（極楽坊・塔跡）と小塔院の三つの寺院が点在しています。小塔院は、元興寺旧境内の南西角にあたり、現在元興寺（極楽坊）が所蔵している五重小塔（国宝）が安置されていますと伝わっており、「元興寺小塔院跡」として国指定史跡になっています。護命は長らくこの地に暮らし、小塔院僧正とも呼ばれていたといわれています。現在の小塔院は、観光ルートから離れているせいか、観光客らしき人はほとんどいない閑静な住宅街の中にあります。この地には、「護命僧正」と彫られた石柱と並び、護命の死後100年くらい経ってから、遺徳を偲んで建てられたという宝篋印塔がお堂裏手にひっそりと佇んでいます。たまたま境内で作業をしていた方と話をさせて頂き、護命の故郷・各務原から来たと伝えると、「それはそれは、ちょっと待って」と小塔院縁起をまとめた資料を下さり、そこには私がこれまで調べた資料にはなかった新たな護命に関する逸話も紹介されていて、とても貴重な資料となりました。



展示会場での「お・も・て・な・し」

今回、企画展の会場監視と展示ガイドを担当する古代史マスターを募集しました。男性13名、女性3名の市民16名が趣旨に賛同し、事前にゼミを受講しました。

古代史マスターによる展示ガイドは、多くの来場者に利用され高い評価を得ました。「博物館は静かに見学する場所」とも言われますが、話し言葉による情報は展示の理解を大きくサポート出来たと思います。16通りの個性ある説明、来場者の要求に応じた対応、質問、意見交換、対話などの様子を見て、社会教育としての展示の在り方を再考させられました。



護命の足跡を追う旅のクライマックスは奈良県内の工芸・特産品を扱う物産販売所です。護命について調べているときに一番気になっていた「味噌」が目的です。これは法論の間に粥に添えて出したと伝わる味噌で、護命が初めて作ったことから「法論味噌」・「護命味噌」・「飛鳥（明日香）味噌」とも呼ばれており、現在でも奈良県内のメーカーがこの伝承を元に、現代人の嗜好にアレンジした味噌を製造販売しています。現代に伝わる護命の功績として、これは是非、各務原市民の皆さまに紹介しなければ、ということでも入手し帰途につきました。

それから、展示準備、会場展示ガイドをしていただく「古代史マスター」の養成講座、中学生の職場体験など、めまぐるしく時が過ぎ、気付いたら企画展が終了していました。46日間の会期中、会場受付でカウントした来場者数は1455人、うち274人の方が来場者アンケートに回答して下さいました。回収率が来場者の半数にも満たないので、これでも来場者全体の感想ととらえるには難しかりかと思いますが、お答えいただいた内容を見る限り「字が小さい」「展示の工夫が足りない」などこちらが反省すべき意見の他、「各務原にもこんな重要な文化財があることは知らなかった」「各務原にこのような古代ロマンがあることが夢みたい」など好意的な意見を多く寄せていただきました。「各務郡出身の護命というお坊さんについて知っていますか？」という質問に8割近くの人が「知らなかった」と答えていましたが、「蘇原にこんな有名な方がいるとは知りませんでした。とても勉強になりました。」などのご意見を頂き、この展示を通して護命僧正を知る人が増えたなら幸いです。また、私が奈良で入手した護命の伝承や味噌に関しても、多くの方が関心を持たれたようで、「是非各務原で再現したい」などの声も聞かれます。これからの展開が楽しみです。

大安寺川の洪水と改修

江戸時代の改修工事について

はじめに

各務原市の東部をほぼ南北に、大安寺川が流れています。大安寺川は北部の山間部から流れ出て、鵜沼大安寺町・鵜沼西町地内を流れ、鵜沼古市場町地内で木曾川に合流する延長2・3キロメートルほどの河川です（写真1）。ところが江戸時代の半ば頃までは、その流路は現在とは違うものでした。大規模な改修工事が行われ、現在のような流路になったのです。そのことを如実に物語っているのが、鵜沼古市場町の大安寺川右岸（西岸）にある承国寺の土塁跡です（写真2）。江戸時代後期の1800年頃成立したという『濃州御行記』にも、大安寺川の岸辺に土手の跡が残っていると書いてあります。

承国寺は室町時代の1450年頃、美濃国守護土岐持益を開基、禅僧純仲全鋸を開山として建てられた、臨済宗妙心寺派の寺院で、その寺域は、現在の鵜沼古市場町4丁目に推定されています。承国寺は16世紀の初め頃まで存在していましたが、戦国時代の争乱のなかで廃れていったといわれています。平成8年（1996）に行われた発掘調査の結果、現存の土塁跡は承国寺の北西部分であることがわかりました。

江戸時代の大安寺川については、記されている史料が少なく、詳しいことはわかっていません。ここでは、現存している史料の中から、江戸時代の大安寺川と河川改修工事を追ってみました。

◀写真1 大安寺川堤防の桜並木



▶写真2 大安寺川右岸に切り離されて残る承国寺北西土塁

一 大安寺川の洪水の記録

江戸時代の中山道鵜沼宿や鵜沼村のことを伝える『万代記』（桜井家文書『各務原市史』史料編 近世II）という史料に、しばしば「川欠」「川成」「川成引」「砂置」「砂入」「堤敷」という、河川の氾濫による被害を連想させる言葉が出てきます。川欠とは水害のため農地として当分使用できない田畑のこと、その田畑からの年貢を免除することを川欠引といいます。川成とは洪水のため土砂が流出し田畑が河川敷となったもので、再検地の年貢は免除されました。そのように荒れた田畑の年貢を免除することを、川成引といいます。砂置とは洪水により田畑に土砂が積もったことで、耕作不可能のため年貢は免除されました。砂入とは田畑に砂が入った程度で、復旧可能な状態をいいます。堤敷とは、高請地のうち堤防のために供せられた土地のことです。残念なことに『万代記』の記事からは、年代を特定できるものは少しありません。川欠でも特に「大川欠」として、未年と戌年が挙げられていて、これはそれぞれ、元禄元年（1688）と元禄7年の川欠のことを指しています。この時の洪水の被害は、深刻なものだったのでしよう。小伊木では2回の洪水後に、それぞれ「年々引」として、田畑が復旧するまで年貢が免除されました。元禄年間の記事には、氾濫した河川の名や被害を被った地域は明記されていませんが、大安寺川も繰り返し洪水を起していたと推測されます。

同じく『万代記』の宝暦13年（1763）の条には、5月24日に大安寺川が何か所かで決壊し、およそ七百石程の田畑が耕作できなくなり、年貢が免除になったと記されています。次に、「大安寺川・金山川水災書上帳」（大竹家文書『各務原市史』史料編 近世II）という史料を見ることができます。この史料には、明和2年（1765）5月16日に大安寺川・金山川の堤防が切れ洪水が起り、田畑が砂入となったこと、17日にも洪水となり、鵜沼村の各所で川欠・砂入が起り、田畑の土も流されたということが書かれています。この時、大伊木の畑地にも深い砂入がありました。床上・床下浸水の被害にあった家があるとも書かれています。この時の大安寺川・金山川は、堤防が決壊し、蛇籠の石や制水のための杭が流されるといふ状況でした。農民たちは田畑の復旧に努力する一方で、現地の状況を实地見分し、年貢の減免と川除普請の願い出を、国定市兵衛・桜井佐兵衛ら4人の庄屋の連名で尾張藩にしています。

鵜沼村の田畑の多くは、中山道の南側に広がっていました。各務原台地の東側、現在の鵜沼西町・東町・南町・古市場町・小伊木町・真名越町に亘る地域には、田畑が広がっています。ひとたび洪水になると、この地域が「川欠」「川成」「砂置」「砂入」となったのです。国土地理院の2万5千分の1の土地条件図（図1）を見ると、ちょうどこの地域が薄い緑色になっています。これは、この地域が低地・氾濫平野であることを示していて、それは大安寺川及び金山川の氾濫平野でもあったということ物を物語っています。

母校の誇りを語り継ぎ！

陵南小学校総合学習 大牧1号墳 「子どもガイド学習」

昭和57年、陵南小学校建設予定地の古墳群が発掘調査されました。その結果、1号墳が非常に貴重な古墳であることが判明し、文化財として学校教育などに活用できるよう保存措置が講じられました。以後、古墳は校庭内に整備され、説明看板とともに学校内外に公開・活用されています。

今回、全国的にも珍しい「古墳のある学校」という特徴を活かして、特別に大牧1号墳を学習する授業を総合学習の一環として取り入れていただきました。それが、「子どもガイド学習」です。

この学習に臨んでは、大牧1号墳の資料とガイドマニュアルを作成しました。そして、1月22日にガイド経験の豊かな中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会有志7名が、資料やマニュアルの内容を6年生72名へ伝達しました。

2月6日と3月2日、古墳の知識を一通り習得した6年生は、後輩の3年生に向け古墳のガイドを行いました。他人に説明できこそ、自分が理解できた証です。6年生は、低学年用に内容をアレンジして、グループ毎に見事なガイド役を果たしてくれました。

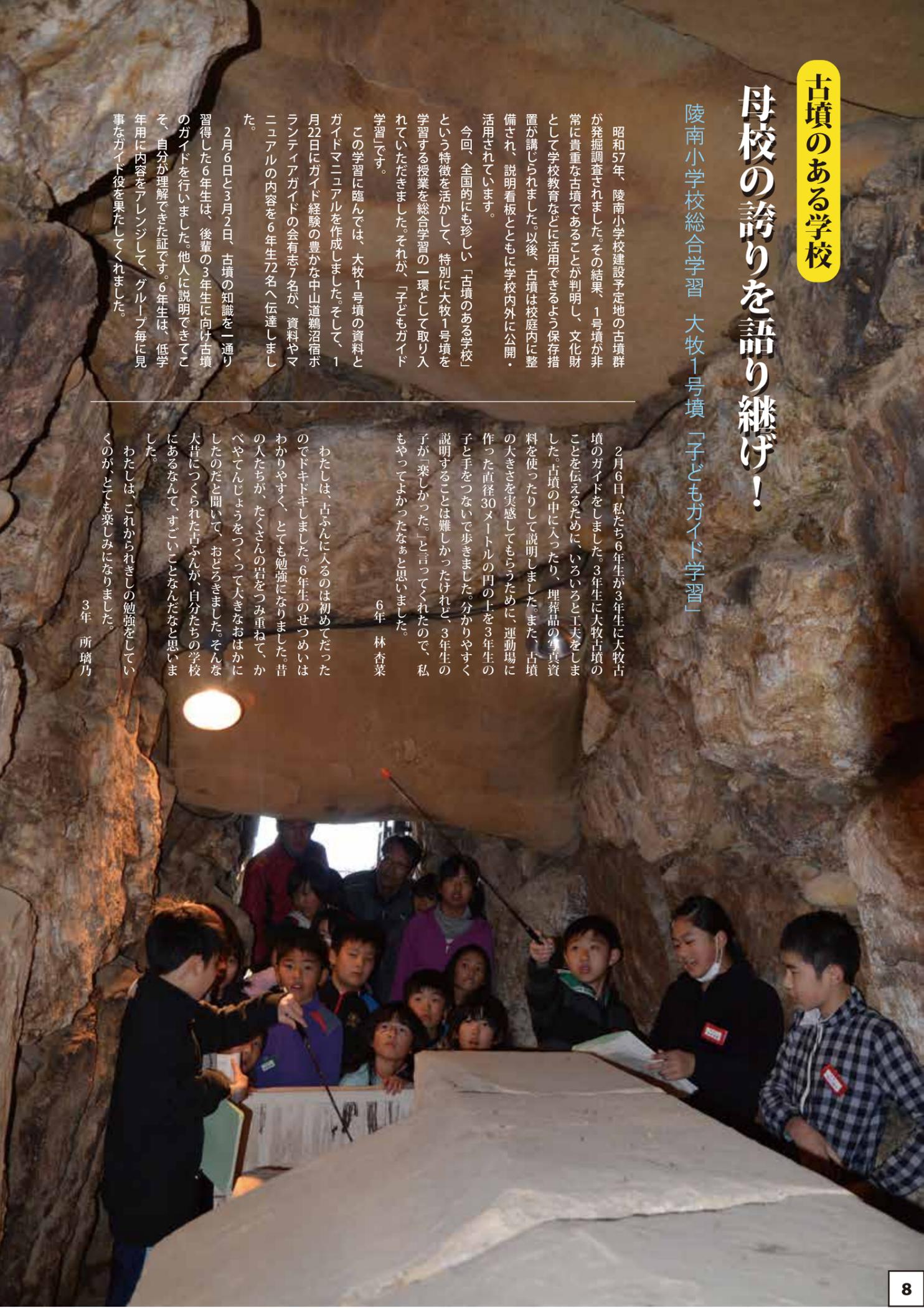
2月6日、私たち6年生が3年生に大牧古墳のガイドをしました。3年生に大牧古墳のことを伝えるために、いろいろと工夫をしました。古墳の中に入ったり、埋葬品の写真資料を使ったりして説明しました。また、古墳の大きさを実感してもらうために、運動場で作った直径30メートルの円の上を3年生の子と手をつないで歩きました。分かりやすく説明することは難しかったけれど、3年生の子が「楽しかった。」と言ってくれたので、私もやってみようかなと思いました。

6年 林杏菜

わたしは、古ふんに入るのは初めてだったのでドキドキしました。6年生のせつめいはわかりやすく、とても勉強になりました。昔の人たちが、たくさんの岩をつみ重ねて、かべやてんじょうをつくって大きなおほかにしたのだと聞いて、おどろきました。そんな大昔につくられた古ふんが、自分たちの学校にあるなんて、すごいことなんだと思います。

わたしは、これからは、これからの勉強を頑張りたい。くのが、とても楽しみになりました。

3年 所瑞乃



「各務野ヒストリー探検MAP」を使い倒そう

私は、生まれも育ちも各務原市蘇原です。現在、67歳です。学生時代に歴史へ興味を持ちました。しかし、名古屋に本社を置く電力会社へ入社し、火力発電部門技術者の末席に連なり45年余り忙しいまま時を過ごしてきました。昨年の3月に区切りがつかしましたが、在職中に歴史への興味はすっかり薄れてしまいました。

そんな折に、歴史民俗資料館が作成した各務野ヒストリー探検MAPに出会いました。この資料は大変分かりやすく出来ているし、これを機会に歴史探検を自分の趣味の一つとして取り組もうと決意しました。そして、即日からMAPを片手に、出来ることから車を走らせ史跡の探訪を始めました。地元出身でも、市内各地の道路や地形に精通していたわけではありません。特に歴史探求の初心者にとっては、目標を探すことは容易ではありませんでした。しかし、次第に発見した時の喜びや達成感が味わえるようになっていきました。

史跡の探訪と併行して、『各務原市史』をはじめとする周辺地域の県市町史、旧各務郡時代の町村史なども読みました。また、その中で興味の湧いた他市町の史跡や資料館も訪れ知識を深めていきました。こうして、遂にMAPに掲載された100箇所の史跡・旧跡のうち、立入りの出来ない7箇所を除き探訪を成し遂げました。

かなりの時間と労力を費やしましたが、得られた成果や充実感には測り知れないものがあります。他の方々も、是非とも挑戦されてはいかがでしょうか。既に探訪していらっしゃる方がみえれば、同志として嬉しく思います。これからも、「正しい史実とは」を命題に、歴史ファンの一人として息の長い地道な探求を



▲ヒストリーマップを制覇した横山二郎さん

していきたくと考える今日この頃です。

各務野ヒストリー探検MAPを利用して、私自身が抱いた夢があります。市内に多く残された大切な歴史資産を、より活用するための中核施設として博物館があれば良いと思います。また、現行の『各務原市史』の内容も、補足すべき新しい史実が増えていると思いますので、市民の歴史教科書となるよう完成度を高めた改訂版が待ち望まれます。

(横山二郎)





主車輪

旧陸軍四式戦闘機キ84「疾風」^{はやて}

第二次世界大戦時の大日本帝国陸軍の戦闘機。開発・製造は中島飛行機。速度・武装・防弾・航続距離・運動性・操縦性および生産性に優れた傑作機であった。また、624km/hという最高速度は大戦中に実用化された日本製戦闘機の中では最速であった。

もう一つの発見がありました。飛燕の部品が保管されていた同じ屋根裏部屋に、牛車の車輪がありました。太い金属のパイプで連結されていますが、それは牛車の車輪に転用するための改造によるもので、本来の姿ではありません。専門家が確認したところ、タイヤサイズの特徴やホイールに打刻された★形の陸軍マークから、旧陸軍四式戦闘機キ84「疾風」の主車輪であることが分かりました。「疾風」を運用した部隊は各務原飛行場に配備されていませんでしたが、小牧や三重県の明野飛行場には展開していたようです。「疾風」が各務原飛行場に存在した理由については、移動中に終戦になったのか、戦闘中に被弾もしくは不都合が発生して着陸し、そのまま終戦になったのか、色々な推測ができます。いずれにせよ、同じ陸軍の飛行場ですので、「疾風」が各務原に置かれていたとしても違和感はないと専門家は言います。

タイヤには、製造された昭和18年8月の日付や、650・17というサイズ表記のほか、指定空気圧やメーカーが記載されています。ツーピース構造のアルミホイールには、センターキャップも付いており、オリジナルの状態を保つ貴重な資料だと思われます。右の三式戦闘機キ61「飛燕」戦闘機の主車輪と比較すると一回り大きく、「飛燕」より大型の戦闘機だったことが解ります。

また、同時に見つかった複葉機のタイヤと思われる車輪は現在調査中です。

(福手一義)

平成27年度公開決定！

特別企画展 「戦後70年 明日の各務原へ」

こちらに紹介した新発見の資料は、企画展で公開。

期日：平成27年8月8日(土)～8月16日(日)

会場：産業文化センター1F あすかホール

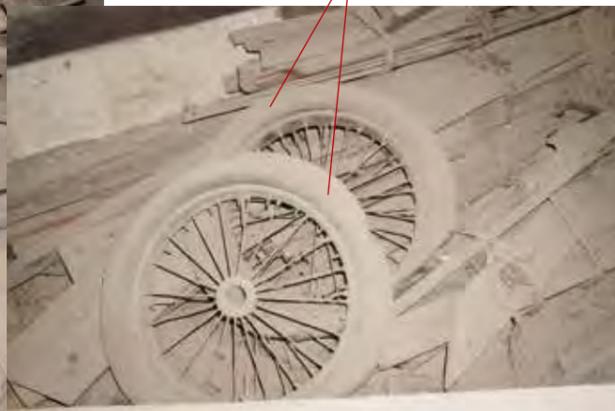
入場無料



発見時の様子

旧陸軍四式戦闘機キ84「疾風」の主輪

複葉機のものと思われる車輪



奇跡の出会い 驚きのあまり声を失った

9月上旬の朝、戦時関係の情報収集に協力していただいている市民の方から電話がありました。「見ていただきたいものがあります」と。私は古い農家の軒先へ案内され、屋根裏部屋から降ろされたばかりのジュラルミン製の部品を見せられました。その途端、驚きのあまり声を失いました。戦時資料に関心があった私には、一見してそれが何なのか判別できなかったからです。

所有者のご厚意により、この資料は各務原市に寄贈されました。私は、この部品が戦闘機の一部であると確信していましたが、さらに特定機種のものではないかという期待を持っていました。詳しく調べていくと、その勅めの中し、旧陸軍三式戦闘機「飛燕」キ61のプロペラスピナーとエンジンカウリングであることが判明しました。

飛燕とは、第二次世界大戦中、各務原の川崎航空機工業で組立生産された、当時、日本で唯一の液冷式エンジンを搭載した戦闘機です。この機体は約3000機が生産されていながら、戦後に処分されてしまふ部品ですらほとんど残されていません。飛燕の部品が、地元に残されていたことは奇跡に等しいことです。

カウリングの裏面には「331」というロット番号が記されており、飛燕1型のものであることが分かります。この型の部品としては、おそらく国内では初めての確認になると思われます。また保存状態が大変良く、表面には「川崎グリーン」と称される濃緑色の塗装が鮮明に残っています。オリジナル塗装が良好に残る資料としては、世界的にも例がないと思われます。

カウリングの表面には、当時の最先端技術である「沈頭鋸」と呼ばれるリベット接合が認められます。この接合技術は、三菱の平山技師によって確立されたもので、機体表面にリベットの頭が飛び出なくすることによって空気抵抗を減らすよう工夫されたものです。まさに、日本人ならではの職人的な拘りとして評価される技術ではないでしょうか。当時、各務原で行われていた「物づくり」の最先端技術を垣間見ることのできる貴重な資料です。

旧陸軍三式戦闘機キ61「飛燕」^{ひえん}

第二次世界大戦時に大日本帝国陸軍が開発し、1943年(昭和18年)に正式採用された戦闘機である。開発・製造は川崎航空機により行われた。設計主務者は土井武夫、副主任は大和田信である。ドイツの液冷航空エンジン DB601を国産化したハ40を搭載した、当時の日本唯一の量産型液冷戦闘機である。



プロペラスピナー

エンジンカウリング

歴史民俗資料の保存・調査

種別	件数	点数
資料の受入	18	291
資料の閲覧	7	18
資料の貸出	4	51
資料掲載許可	5	9



▲新加納村五榜の掲示(第1札)

文化財施設の活用

施設名	見学人数	見学団体数	展示・発表会	学習・作業・会議
炉畑遺跡	881	17		
大牧1号古墳	23	1		
天狗谷遺跡	41	1		
中山道鶴沼宿町屋館	9,034	31	1	102
中山道鶴沼宿脇本陣	8,203	31	13	3
木曾川文化史料館				

出前講座・職員講師派遣

実施日	講座先	内容	人数
4月20日 日	各務原美術愛好会	各務原台地の歴史	24
5月16日 金	各務小学校	各務の歴史	50
5月20日 火	中央ライフデザインセンター前期講座	旗本坪内利定と新加納	25
6月10日 火	中央ライフデザインセンター前期講座	護命と山田寺	25
6月17日 火	中央ライフデザインセンター前期講座	現地見学会(山田寺跡)	25
6月17日 火	各務小学校	船山北古墳群・天狗谷遺跡見学会	50
7月9日 水	緑苑小学校放課後子ども教室	子ども達に伝えたい各務原空襲	28
7月10日 木	ボランティアハウスひまわり会	各務原台地の歴史	35
8月8日 金	コープ各務原	子ども達に伝えたい各務原空襲	18
9月20日 土	各務原美術愛好会	各務原台地の歴史	23
10月17日 火	鶴沼第三小学校	鶴沼の歴史 ～昭和～	16
10月30日 木	蘇原第一小学校	子ども達に伝えたい各務原空襲	160
10月30日 木	岐阜県歴史資料保存協会	旗本坪内陣屋跡の発掘調査成果	52
11月28日 金	炉畑遺跡保存会	市内史跡見学会	23
12月11日 木	やすらぎの旭	中山道鶴沼宿の保存と活用の取り組み	40
1月9日 金	ヒストリー各務野会	日本の旧石器時代 ～発見と捏造～	23
1月22日 木	陵南小学校	大牧1号墳 子どもガイド学習	72
2月12日 木	ボランティアハウスひまわり会	各務原台地の歴史	35
2月13日 金	地域活動支援センタービリーブ	子ども達に伝えたい各務原空襲	10

展示活動

第1回企画展
「木曾川通漁獵一件」
平成26年7月24日(木)
～平成26年11月30日(日)
木曾川文化史料館(川島会館4階)
来場者数 612人



▲第1回企画展の様子

第2回企画展
「護命僧正と古代山田寺」
平成26年12月10日(水)
～平成27年2月11日(水)
展示室A(中央図書館3階)
来場者数 1,455人



▲第2回企画展の様子

企画展特別講演会
小川貴司(元早稲田大学大学院講師)
「護命僧正伝を紐解く
護命と美濃山田寺址」
平成27年1月12日(月)
多目的ホール(中央図書館4階)
参加者数 146人



▲特別講演会の様子

各務原歴史セミナー(全6回)

100人

実施日	テーマ	講師
6月29日 日	明治から大正・昭和へ ～史料からみる女性の生き方～	岐阜女子大学 辻公子
7月13日 日	戦時下の各務原	岐阜市立黒野小学校教頭 鷺見隆司
7月27日 日	献上と格式 ～柿・鮎・岩茸～	岐阜大学名誉教授 松田之利
8月10日 日	逆説の各務原古代史	各務原市歴史民俗資料館長補佐 西村勝広
8月24日 日	木曾川沿岸の神社と小祠	中部大学人文学部准教授 越川次郎
8月31日 日	木曾川流域の文化史	岐阜大学留学生センター教授 森田晃一

各務原野外セミナー

実施日	テーマ	講師	人数
9月26日 金	各務原の戦時遺跡探訪	南山大学名誉教授 伊藤秋男	30
10月8日 水	木曾三川の中流域	前岐阜聖徳学園高等学校講師 所 史隆 岐阜大学名誉教授 松田之利	28
10月22日 水	根尾谷断層見学会	岐阜大学名誉教授 小井土由光	30
10月26日 日	各務原アルプス自然観察会	岐阜県立森林文化アカデミー准教授 柳沢 直	15

各種講座事業

楽しい将棋教室 15人

小学生歴史教室

実施日	実施日	内容	人数
1 5月10日 土	1 8月1日 金	戦争と平和を学ぼう!	20
2 5月17日 土	2 8月7日 木	太古を探検しよう!	19

陵南小学校子どもガイド学習

実施日	実施日	内容	人数
4 5月31日 土	1 1月23日 木	ガイド学習	72
5 6月7日 土	2 2月6日 金	ガイド実践(3年生へ)	144
6 6月14日 土	3 3月2日 月	ガイド実践(3年生へ)	144

村絵図を歩こう

実施日	開催日	内容	人数
8 6月28日 土	1 9月4日 木	絵図についての学習	15
9 7月5日 土	2 9月11日 木	現地探訪(中山道鶴沼宿)	
10 7月12日 土			

古文書入門講座 15人
「まじめての古文書」

怪談ライブIN脇本陣 8月16日(土) 150人
芭蕉句碑拓本講座 10月8日(水) 8人
中山道鶴沼宿「姫街道ひなまつり」 3月22日(日) 41人

実施日	実施日
1 6月11日 水	
2 7月9日 水	
3 8月13日 水	
4 9月10日 水	
5 10月8日 水	
6 11月12日 水	
7 12月10日 水	
8 1月21日 水	

写真

中山道鶴沼宿ボランティアガイドの活動

実施日	内容
5月13日 火	中央ライフデザインセンター前期講座講師(全6回) ～6月17日(火)
6月1日 日	中山道ぶらっと寄り道ウォーク(村国座～おがせ池)
6月20日 金	史跡研修(恵那市岩村)
7月20日 日	中山道69次宿場うちわ展 ～8月24日(日)
8月23日 土	小学生自由研究おたすけウィーク ～8月31日(日)
9月21日 日	中山道鶴沼宿まつり(鶴沼めぐりパネル展・紙芝居・文化財一斉公開解説)
10月5日 日	中山道鶴沼めぐり(ぎふ17宿歩き旅エントリー)
10月10日 金	史跡研修(大垣市墨俣町と愛知県一宮市起宿)
11月2日 日	市長と歩く伊能忠敬の道(ぎふ17宿歩き旅エントリー)
3月22日 日	中山道鶴沼宿春まつり(鶴沼めぐりパネル展・紙芝居)

中山道鶴沼宿ガイド実績 町屋館 4,326人 脇本陣 3,785人